

打合せ議事録	
件名	区政会議子ども・教育部会
日時	平成28年5月30日(月)19時20分～20時0分
場所	すみのえ舞昆ホール
参加者	(委員) 門晶子委員、伊達美寿保委員、西山ルミ委員、藤本麻子委員 (区役所) 長船、木村、上野
内容	<p>①レジュメに沿って長船より平成27年施策の実施結果の報告、平成28年度事教育関係事業の連絡を行った。以下報告のポイント</p> <p>【1 平成27年度施策の実施結果報告について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭児童相談員を25年度から区独自予算で1名増員した結果、学校や保育所での面談件数が2.7倍になっており、有効に活用いただいている。 ・スクールカウンセラーは従来、各中学校へ週1で訪問していたが、区独自予算で増員し小学校へも隔週で訪問しており、計画的に相談できる体制を整えている。 ・漢検、英検は対象児童生徒の90%以上が受検、60%以上が合格している。 ・こども学習サポートの利用率が90.3%と100%には届かない結果となったが、一方で複数校から派遣時間を増やしてほしいとの声があがっている。今年度は運用方法を見直して利用率100%に近づける。 <p>【2 平成28年度教育関係事業一覧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども学習サポート事業、漢検(小・中学生の学習意欲向上事業)、英検(中学生の英語力向上支援)は派遣時間や対象を拡充している。 ・発達障がいサポート事業、家庭児童相談運営、スクールカウンセラー事業は27年度から大きな変更なく引き続き行う。 ・南港南中学校に27年度から導入しているe-ラーニングは引き続き行う。学校側からは、生徒の自主学習促進や英語力の向上に効果ありと報告あり。 ・新規事業として、加賀屋中学校で民間事業者が塾を開講する「住之江区基礎学力アップ事業(加賀屋塾)」、平林小学校と住之江小学校で辞書引き学習を行う「小学生の国語力向上事業」を行う。 <p>②質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加賀屋中学校での塾について、しんどい子が自分から参加しようと手をあげるとは思えないが大丈夫なのか。(門委員) <p>⇒三者面談などのタイミングで教員から生徒へ参加を勧めるなど、学校に協力いただいて効果的な周知をしていく。周知までは学校に協力いただくが、事業そのものは学校とは切り離す。(長船)</p>

・小学生の国語力向上事業について、導入したはいいものの継続的に活用されるのか疑問。(門委員)

⇒対象校の校長の要望で導入しているものであり、積極的に活用されると想定している。南港光小学校に導入した例を見ると、児童それぞれが自主的に活用しており、同様の状態になると期待している。(長船)

③29年度教育関係施策の方針について

・引き続き学力向上を目指す施策を行ってほしい。(藤本委員)

・学力向上も続けてほしいが、最近のこどもは精神的に不安定なこどもが多いように感じるため、メンタル面のフォローも手厚くしてほしい。(伊達委員)

⇒家庭児童相談員担当の職員へ要望あった旨を伝える。しかし、家庭児童相談員は給与面の課題があり、増員が難しい状況である。(長船)

・テストに直結するような事業よりも、こどもが学ぶことを楽しいと感じられるような事業を行ってほしい。例えば、今年度行う辞書引き学習や、朝の読書など。漢検や英検はいいけれども、せっかく校長経営戦略支援予算の区長執行枠ができたのなら、この枠は楽しく学べる事業を行ってほしい。(門委員)

・障がいや、なにか課題のあるこどもが対象と思われる学童保育のような施設が増えているように感じる。こういった施設を必要とする家庭が増えているということなのだと思う。(門委員)

・学習環境の改善という意味で、中学校給食の親子方式を早く進めてほしい。(門委員)

⇒来年度は区内中学校の半分強は親子方式に変えられると思う。(長船)

↓

来年度も引き続きこどもの学力向上と学習環境の整備を行う。テストに直結するような事業のみにとらわれず、事業内容を模索する。